

# くまびょう

# 140号

# NEWS

くまびょう  
NEWS

2009年  
2月1日



[発行所]

国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519

## 平成20年度 第2回開放型病院連絡会開催迫る

平成20年度第2回（通算26回）の国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が、来る2月28日（土）午後6時30分より、くまもと県民交流館パレアホールで開催されることになりました。紹介症例の呈示に続きまして、今回は厚生労働省医政局指導課長 三浦公嗣先生の「これからの医療の課題について」と題しての特別講演を企画させて頂きました。多数ご参加を頂きますようご案内申し上げます。看護部門、事務部門、MSWの方などのご参加も歓迎致します。

当日、会場にて新規登録医の受付もできます。ご希望の先生は会場受付でお申し付け下さい。

（副院長 河野 文夫）

### 第26回 開放型病院連絡会のご案内

日 時：平成21年2月28日（土）

午後6時30分～8時30分

場 所：くまもと県民交流館パレアホール  
（鶴屋東館10階）

－ 内 容 －

1. 紹介症例の呈示（ミニレクチャー）
2. 総合討論
3. 特別講演

「これからの医療の課題について」

厚生労働省医政局

指導課長 三浦 公嗣 先生

〈お問い合わせ先〉

国立病院機構熊本医療センター管理課

電話 096-353-6501 内線390（西田・牧野）

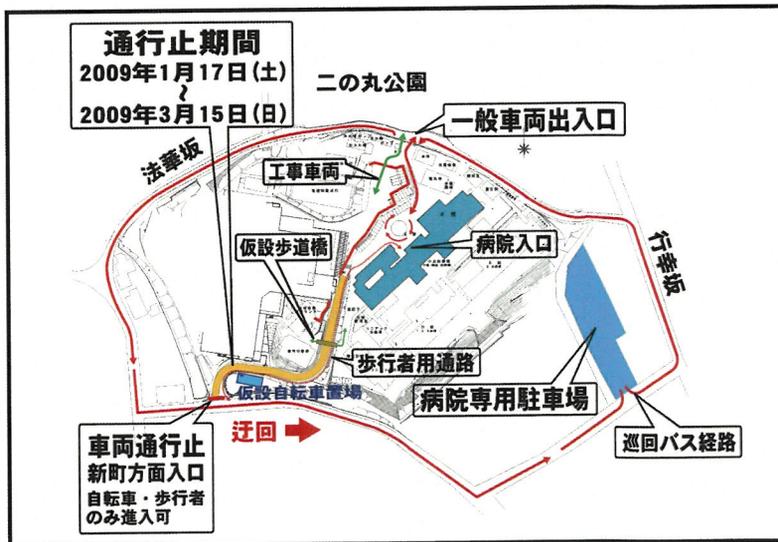
住所 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

## 新病院の進捗状況と入口通路変更のお知らせ

建設中の新病院の躯体工事（病院外枠）完了間近となり、病院の全貌が現れてまいりました。2月末には躯体工事が完了し、これ以後は内部の設備工事が集中して行われ、9月には竣工・移転となり、9月下旬には新病院での診療が行われる予定です。

工事に伴い、駐車場、通路などご迷惑をおかけ致しておりますが、今回新たに、配水管工事のために、新町方面から坂を上る入り口通路を一時閉鎖（1月17日～3月15日まで）することになりました。自動車、バイク、自転車の通行はできませんが、歩行はできます。これに伴い自動車等の出入り口を二の丸公園側に移転致しました。大

変ご迷惑をおかけ致しますが、ご協力とご理解をお願い致します。  
（管理課長 西田 政宏）



病院入口までの迂回路



## 国立熊本病院の思い出

医法) 社団英山会  
平山泌尿器科医院  
ひらやまクリニック  
理事長 平山 英雄



知人の入院等で、最近よく国立熊本病院（現熊本医療センター）を訪れる機会がある。先日も知人を見舞いに、別6病棟に足を運んだが、病院玄関前では、来期に向けての新病棟が建設中であった。今、約30年前を思い起こしてみた。私が泌尿器科に勤務（昭和54年7月～56年6月）していた病棟は昔のままで、少し異なっているのは立派な個室が出来たことだ。私が勤務していた頃の泌尿器科外来は1階で、今ある場所の向かい側にあった。今回来訪時に1階横の出入り口から病院内へ入ったが、私達はその頃もこの出入り口を利用していた。結婚してすぐに熊本大学附属病院から国立熊本病院に外勤となった。

当初は医長の鎗水史朗先生、小川修先生と私の3人であったが、その約1年後小川修先生から山本敏広先生になったが、とても楽しく実りある2年間を過ごした。月～土（水曜を除く）の午前中は外来、月、水、金が手術日、火、木が検査日であった。毎週木曜日は検査が終了後、夕方より抄読会をしていた。抄読会は英語の論文で、3度に1度の割合で回ってきた。医長より配布され、私には総説が与えられ、全訳せねばならず大変だったことを今は懐かしく思う。毎日の仕事が終わりと、時計を見ると既に5時過ぎとなっており、外来にて看護師が入れてくれた美味しいコーヒーを飲む時が、最高の安らぎの時間であった。医長からは、手術の前に毎回必ず英語の手術書を読んでくるように言われ、TUR-Pの時にはモニター等はなく1人心細く前立腺を削っていた事を思い出す。しかし今思えば1番充実した2年間であったようだ。その後大学病院に戻ったが、大学へ戻る際に医長から「国立熊本病院で手術を含め臨床は学んだから、これからは大学に戻り、研究をすれば、それがしっかりと根となり、将来たくましい大木に育つ」とのお言葉を頂いた。当時手術室の看護師として勤務していた平井さんが、現在平山泌尿器科の透析室の師長として勤務している。またひらやまクリニックに国立熊本病院の泌尿器科に勤務していた小川愛一郎先生を院長、看護師の野村さんを師長として迎えている。医師の過激な勤務、医療ミス、医療訴訟やらと何かを医療に関する諸問題が議論されているが、皆仲良く楽しく仕事出来る職場を常に目指していきたいと思っている。

## 平成20年度第2回開放型病院運営協議会開催される

平成20年度第2回（通算27回）の国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が平成20年12月5日（金）午後7時より当センター会議室で開催されました。協議会の委員は熊本市医師会より医師会長の福田稔先生、副会長の加来裕先生、担当理事の田中英一先生、家村昭日朗先生がご出席頂き、当院より池井院長、河野副院長、野村統括診療部長、片渕地域医療連携室長が出席致しました。院長より、医師会長はじめ医師会委員の先生方に日頃の御礼を述べ、続いて福田委員長よりご挨拶を頂きました。議事に移り、事務局より開放型病院利用状況、開放型病院登録医数、訪問医師数、共同指導数などを報告しました。次いで第25回開放型病院連絡会（平成20年9月22日）の参加者数、「くまびょうニュース」の発行状況について報告を行

いました。第25回連絡会には多数の参加があり、ご参加の先生方には改めて御礼申し上げます。次の協議事項では、平成20年度第2回（通算26回）開放型病院連絡会の開催について協議され、平成21年2月28日（土）午後6時30分より開催されることが決定しました。会場は、これまで年度2回目の連絡会は地域医療研修センターで開催してまいりましたが、病院建築中のため昨年に続きまして県民交流館パレアホールとなりました。内容は、紹介症例の呈示（ミニレクチャー）、特別講演を行うことになりました。特別講演は、例年通り厚生労働省の先生にお願いすることになりました。開放型病院連絡会に多数の先生方、スタッフの皆様がご参加頂きますようお願い申し上げます。

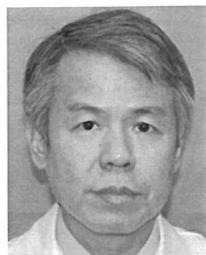
（副院長 河野 文夫）



医長、超音波診断室長  
杉 和洋

消化器一般、消化器内視鏡、  
肝疾患

日本内科学会指導医・認定医  
日本肝臓学会指導医・専門医  
日本消化器病学会指導医・専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本消化器病学会九州評議員  
日本肝臓学会西部会評議員  
外国人医師臨床修練指導医



医長、内視鏡室長  
前田 和弘

消化器一般、消化器内視鏡

日本内科学会指導医・認定医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会指導医・専門医



医師  
中田 成紀

消化器一般、消化器内視鏡、  
肝疾患

日本内科学会認定医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本肝臓学会



医師  
片山 貴文

消化器一般、消化器内視鏡、  
肝疾患

日本内科学会  
日本消化器病学会  
日本消化器内視鏡学会  
日本肝臓学会



医師  
尾上 公浩

消化器一般、消化器内視鏡

日本内科学会認定医  
日本消化器病学会  
日本消化器内視鏡学会  
日本肝臓学会



医師  
松山 太一

消化器一般、消化器内視鏡

日本内科学会  
日本消化器病学会  
日本消化器内視鏡学会  
日本肝臓学会



医師  
佐藤有紀子

消化器一般、消化器内視鏡、  
肝疾患

日本内科学会  
日本消化器病学会  
日本消化器内視鏡学会  
日本肝臓学会

## 診療内容と特色

当科の診療の基本理念は「丁寧な対応と入念な治療、  
協調協力と新しい挑戦」です。

### 『消化器疾患の診療』

治療内視鏡としては、上部消化管（食道・胃・十二指腸）では、食道静脈瘤に対して硬化療法（EIS）、結紮術（EVL）、およびその併用（EISL）、総胆管結石に対して乳頭切開術（EST）やバルーン拡張術（EPBD）、食道あるいは幽門狭窄拡張術、ポリープの切除術、出血例ではエタノール局注法、クリッピング法による止血術を行っています。早期胃癌に対しては内視鏡的粘膜切除術（EMR）に加え、粘膜下層剥離術（ESD）を導入しています。また下部消化管（結腸・直腸）ではポリープ切除術、EMR、ホットバイオプ

シー及び止血術を多用しています。さらに経管栄養で嚥下障害のある患者様には、内視鏡的胃瘻造設術（PEG）を行っています。

### 『肝・胆・膵疾患の診療』

肝疾患では慢性疾患が多く、肝生検による組織学的診断による病態把握とともに、C型慢性肝炎ではインターフェロン（IFN）療法、特に難治性症例に対するPEG-IFN・リバビリン併用治療を積極的に行い、地域連携による診療を推進しています。B型慢性肝炎に対する核酸アナログ治療も数多く行っています。また原発性胆汁性肝硬変症例が多く、国立病院機構肝疾患専門施設と共同で臨床研究を行い、病態解明に努めています。肝硬変症例では食道胃静脈瘤に対するEISL、EVL、さらにはバルーン閉塞下逆行性経動脈的塞栓術（B-RTO）治療を行っています。また肝硬変栄養療法に取組み、成果を上げつつあります。肝細胞癌では、肝動脈塞栓術（TAE）とともにラジオ波焼灼療法（RFA）を多数行っています。胆・膵疾患で

（次ページ続く）

(前ページより)

は、経皮経肝胆道ドレナージおよびステント留置術や膵癌に対する化学療法を積極的に行っています。近年注目されている非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)の診断治療にも力を入れています。

## 診療実績

	外来新患者数	月平均	新入院患者数	月平均
平成15年度	1,549	129	1,047	87
平成16年度	1,673	139	1,088	91
平成17年度	1,923	160	1,196	100
平成18年度	1,844	154	1,240	103
平成19年度	2,121	177	1,460	122

主要疾患	年間総入院数1,484例 (2007年)
急性肝炎(劇症肝炎含む)	8例
慢性肝炎(肝生検・インターフェロン)	88例
肝硬変(肝性脳症・腹水)	71例
食道胃静脈瘤(内視鏡的治療)	47例
肝細胞癌(TAE・RFA含む)	127例
胆嚢炎(PTGBD含む)	19例
胆石症	8例
胆嚢癌・胆管癌(PTCD・ステント含む)	8例
急性膵炎・慢性膵炎	30例
膵癌	3例
胃十二指腸潰瘍(内視鏡的止血術含む)	89例
胃癌(内視鏡的粘膜切除含む)	34例
イレウス	73例
潰瘍性大腸炎・クローン病	11例
大腸ポリープ(内視鏡的ポリープ切除)	33例
大腸癌	31例

検査治療手技	2007年度
上部消化管内視鏡検査	2,880例
下部消化管内視鏡検査	1,160例
治療内視鏡; 経皮内視鏡的胃瘻造設術 新規	63例
胃瘻カテーテル交換	49例
胃・大腸のポリペクトミー、EMR	48例
内視鏡的止血術(エタノール、クリップ法)	139例
食道・胃静脈瘤に対するEIS・EVL	50例
内視鏡的バルーン拡張術	40例
異物除去術	13例
粘膜下層剥離・切除術	24例

## 研究実績

日本全国の肝臓専門施設で作る国立病院機構肝疾患ネットワーク(肝ネット)に参加し、大量のエビデンスを蓄積してEBMを推進するための共同研究を行っています。院内活動では、患者との教育と交流を兼ねて「肝臓病教室」を毎月第3金曜日に開催しています。平成20年4月より全国でもいち早くC型慢性肝炎インターフェロン治療地域連携クリティカルパスを作成し運用を始め、地域の医療機関と実地医療に根ざした勉強会として「二の丸肝臓談話会」を発足しました。国際医療協力として集団研修コース「肝炎の疫学、予防及び治療」を通してJICA(国際協力機構)と共に途上国の肝炎専門医師等に対する研修を指導しています。

## ご案内

毎週火曜日には内視鏡検査の症例検討会を、木曜日には超音波検討会を午後5時より心大血管リハビリテーション室で、金曜日午前8時より消化器病カンファレンス室を本館2階カンファレンスルームで行っています。ご参加を歓迎致します。二の丸肝臓談話会は年4回の事例検討会と1回の特別講演会を予定しています。興味ある症例や診断あるいは治療に苦慮する症例があればご紹介下さい。緊急を要する場合は、杉または前田に直接ご連絡下さい。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

## 最近のトピックス

## レビー小体型認知症について



精神・神経科医長

山下 建昭

レビー小体型認知症 (dementia with Lewy bodies ; DLB) は、1995年の国際ワークショップで初めて提唱された名称で、疾患概念とともに臨床・病理診断基準のガイドラインが作成されました。DLBは、進行性の認知機能障害に加えて、特有の精神症状とパーキンソニズムを示す変性性認知症です。病理学的には、大脳と脳幹の神経細胞脱落とレビー小体の出現を特徴とします。

発症年齢は、60～80歳代の初老期・老年期に多いが、40歳代などの中年期にも稀ながらみられます。男性にやや多く、多くは孤発性で、家族性を持つものは稀です。臨床診断による頻度は、認知症のうち10～30%と報告に幅があり、病理診断による頻度は、認知症の15～20%程度と報告されています。老年期の変性性認知症ではアルツハイマー型認知症 (Alzheimer-type dementia ; ATD) に次いで頻度が高い疾患です。

症状は表 (DLBの改訂臨床診断基準ガイドライン) に示したように、進行性の認知機能障害、認知機能の変動、幻視、パーキンソニズム、REM睡眠行動障害、抗精神病薬に対する感受性の亢進、転倒、失神、自律神経機能異常、系統的な妄想、抑うつ状態などがみられます。

検査所見としては、画像所見として海馬などの内側側頭葉の萎縮はATDに比べて軽度であり、脳SPECTやPETなどの機能画像では、後頭葉にびまん性の血流低下や糖代謝低下がみられます。また、MIBG心筋シンチグラフィで取り込み低下がみられます。

治療は、周辺症状の種々の精神症状に対しては、コリンエステラーゼ阻害薬 (ドネペジル) の少量投与、非定型抗精神病薬 (クエチアピン、アリピプラゾールなど) の少量投与、抑肝散などの薬物療法が行われています。

DLBの病態には、 $\alpha$ -synucleinの蓄積・凝集が深く関与していることが示唆されており、 $\alpha$ -synucleinの凝集性亢進にかかわる諸因子ならびに分解機構などの解明により、DLBの根本的治療法の開発が期待されているところです。

表 DLBの改訂臨床診断基準ガイドライン

1. 必須症状：進行性の認知機能障害
2. 中核症状 (probable DLBには2つが、possible DLBには1つが必要) :
  - a. 注意や覚醒レベルの変動を伴う認知機能の動揺
  - b. 現実的で詳細な内容で、繰り返し現れる幻視
  - c. パーキンソニズムの出現
3. 示唆症状 (possible DLBに1つ以上あれば probable DLB) :
  - a. REM睡眠行動障害
  - b. 抗精神病薬に対する感受性の亢進
  - c. 機能画像で基底核のドパミン取り込みの低下
4. 支持症状 :
  - a. 繰り返す転倒
  - b. 失神
  - c. 自律神経機能異常
  - d. 幻視以外のタイプの幻視
  - e. 系統的な妄想
  - f. 抑うつ状態
  - g. 形態画像で内側側頭葉が比較的保たれる
  - h. 機能画像で後頭葉のびまん性の取り込み低下
  - i. MIBG心筋シンチの取り込みの低下
  - j. 脳波で初期からの除波活動
5. 除外項目 :

文献<sup>17)</sup> から改変

## 第14回 国立病院機構熊本医療センター-医学会開催される

2009年1月18日（日）に、第14回国立病院機構熊本医療センター医学会が、地域医療研修センターにて開催されました。本学会は、当院の全職種のスタッフが日頃の研究成果を発表し、当院の医療水準の向上を目指すとともに、お互いの理解を深めることを目的としています。今回は一般演題37題が報告されました。また、本学会は例年開放型病院登録医の先生方のご参加も頂いておりますが、今回は庄嶋健先生（庄嶋医院）、木村圭志先生（七城木村クリニック）に座長をお願いし、貴重なご助言と活発な討論を行って頂きました。

発表の内容は、研修医、レジデントの方々は臨床上貴重な症例の報告をされました。文献的考察を良くされ、示唆に富む内容が多かったと思います。また、心臓血管外科の片山幸広先生、整形外科の田原準先生、耳鼻科の竹村考史先生、放射線科の赤池公孝先生、消化器科の中田成紀先生は其々経験した症例をまとめた



参加者の質問に答える片山幸広先生



### 医学会風景

ケース・シリーズ研究またはコホート研究の報告をされました。さらに、血液内科の武本先生は自らが開発した腫瘍マーカーである可溶性CD30の意義について、新しい知見を発表されました。

看護部および看護学校からは5題発表がなされました。主にこれまで取り組んできた卒前卒後教育に関するもので、興味ある内容でした。また、事務部門からも積極的な行動目標を発表して頂きました。コメディカル部門も医療事故防止の取り組みや医療資源の有効利用、新しい画像処理法、MRSA治療における問題点など非常に斬新な内容が多く見られました。

本学会は職員同士の理解や認識を深めるだけでなく、学問的にも優れた内容であったと思います。今後は、さらにブラッシュアップし、全国学会で積極的に発表され、また、論文にして形に残されることを切に願います。  
（臨床研究部長 芳賀 克夫）



## 国際医療協力

### 平成20年度「血液スクリーニング検査向上（中米地域）」研修コース

国立病院機構熊本医療センターは、国内唯一の国際医療協力基幹施設として、JICA（国際協力機構）、JICE（日本国際協力センター）及び熊本県と連携し、積極的に国際医療協力を推進しています。

平成21年1月19日より2月13日まで平成20年度「血液スクリーニング検査向上（中米地域）」研修コースにグアテマラをはじめ5ヶ国10名が、当院の研修棟に宿泊しながら研修を行っています。

（庶務班長 牧野 功）

研修は次の3項目を目標に掲げて実施されます。

1. 安全な血液供給の世界的戦略と、エイズ、成人T細胞白血病、ウイルス性肝炎、テング熱、マラリアなど血液感染疾患の管理を理解する。
2. 血液スクリーニングと評価方法についての知識と技術を習得する。
3. 血液スクリーニングシステムを理解し、各国の既存システムを改善するための提案をする。

# ■ 研修のご案内 ■

## 第24回 熊本がんフォーラム(無料)

日時▶平成21年2月4日(水)19:00~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

司会 国立病院機構熊本医療センター地域医療連携室長 片渕 茂

「熊本在宅ドクターネットの紹介—在宅医療の現状と今後のネットワークの構築—」

講師 田島医院長 田島 和周

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第121回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成21年2月16日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真真偽 国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 柏原 光介
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「下肢痛、股関節痛により歩行困難となった低リン血症、高ALP血症の1例」  
国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗
4. ミニレクチャー「循環器疾患のトピックス」  
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科 古賀 英信

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第90回 三木会(無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成21年2月19日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 教育研修棟4階

1. 「低血糖を呈したダンピング症候群の1例」  
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科  
坂田和也、西岡裕子、児玉章子、高橋 毅、豊永哲至、東輝一朗
2. 「妊娠糖尿病クリティカルパス適用195症例の特徴に関する検討」  
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科  
児玉章子、西岡裕子、高橋 毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線705

## 第95回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成21年2月25日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

症例検討「心・血管疾患」 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝  
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター心臓血管外科医長 毛井 純一  
医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

## 第229回 初期治療講座(会員制)

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

〔日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定〕

日時▶平成21年2月28日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

- 「消化器病の栄養療法」 座長 熊本市医師会 鶴田 克明
1. 肝臓病に対する栄養療法 国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科医長 杉 和洋
  2. 消化管疾患と栄養療法 国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科 尾上 公浩
  3. 栄養管理室の取り組み 国立病院機構熊本医療センター管理栄養士 大山 明子
  4. 講演 メタボリックシンドロームと肝臓病：非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)  
国立病院機構別府医療センター副院長 酒井 浩徳

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

2009年

# 研修日程表

2月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

2月	研修ホール	教育研修棟 4階	その他
2日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
3日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
4日(水)	19:00~20:00 第24回 熊本がんフォーラム 「熊本在宅ドクターネットの紹介 -在宅医療の現状と今後のネットワークの構築-」 司会 国立病院機構熊本医療センター地域医療連携室長 片淵 茂 講師 田島医院長 田島 和周		
5日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
6日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
7日(土)	10:00~12:00 第1回 熊本EBMセミナー「英語プレゼンの仕方、英語論文の書き方」 14:00~16:00 第211回 滅菌消毒法講座《会員制》 「手術器械の滅菌における問題点」	済生会福岡総合病院麻酔科部長 松田 和久	
9日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
10日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 19~21 泌・放射線科合同ウロプログラム
12日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
13日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
15日(日)	8:30~17:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 <総会・学会>		
16日(月)	19:00~20:30 第121回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
17日(火)	18:00~19:30 第47回 くすりの勉強会(公開)	18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
18日(水)	13:00~17:30 日本医療マネジメント学会主催 平成20年度第3回クリティカルパス実践セミナー in 熊本 [1日目] 18:00~19:30 第56回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会(公開) 9:00~14:30 日本医療マネジメント学会主催 平成20年度第3回クリティカルパス実践セミナー in 熊本 [2日目]		
19日(木)	19:30~21:30 第51回 有病者歯科医療講演会 座長 熊本県歯科医師会学術委員会理事 伊藤 明彦 「眼科救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター眼科医長 青木 浩則	19:00~20:45 第90回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病看護士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
20日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
23日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(会) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
25日(水)	18:30~20:00 第95回 救急症例検討会 「心・血管疾患」		
26日(木)		19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
27日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
28日(土)	15:00~18:00 第229回 初期治療講座《会員制》 [日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定] 座長 熊本市医師会 鶴田 克明 「消化器病の栄養療法」 1. 肝臓病に対する栄養療法 国立病院機構熊本医療センター消化器科医長 杉 和洋 2. 消化管疾患と栄養療法 国立病院機構熊本医療センター消化器科 尾上 公浩 3. 栄養管理室の取り組み 国立病院機構熊本医療センター管理栄養士 大山 明子 4. 講演 メタボリックシンドロームと肝臓病:非アルコール性脂肪性肝炎(NASH) 国立病院機構別府医療センター副院長 酒井 浩徳		

(会)会議室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 心リハ 心大血管リハビリテーションセンター  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)